

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895400034		
法人名	株式会社 マルシン		
事業所名	グループホーム レガート(A棟)		
所在地	茨城県鉾田市青山1542-1		
自己評価作成日	2022年1月15日	評価結果市町村受理日	2022年4月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JirgvsyoCd=0895400034-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2
訪問調査日	2022年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設全体の理念である「異体同心」の気持ちを大切に、ご利用者様・ご家族はもちろんですが職員同士であっても相手を思いやる気持ち、相手を受け入れる気持ちを忘れないよう職員が心掛けて業務を行っています。また、職員がチームケア・個別ケアの大切さを自覚することで一体となり、ご利用者様の望む暮らしが送れるよう日々努力しています。昨年に引き続き新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご利用者様の感染しない事はもちろんですが、職員が施設内に持ち込まないよう慎重な行動を心掛け、また感染が疑われる場合の対策を周知するなど感染対策の徹底しています。職員には制約のある生活を送る日々となっていますが、お互いに確認をしながらご利用者様が元気に生活出来る様努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念に掲げられている『異体同心』が日常生活の中に浸透している。お互いを思いやる気持ちが徹底されており、職員はチームケアへの意識が強い。時間に縛られすぎず、その時の状況で臨機応変な対応ができる良さがある。また、一人ひとりの利用者に合わせて介護ができるのも少人数であるからその良さである。特養勤務を経験した職員からは、利用者一人ひとりに関する事ができ、働きやすく、安心できると語っていた。今回の自己評価は、職員への聞き取りやミーティングでの話し合いをもとに管理者が中心となってまとめ、職員全員で確認した。自己評価をする過程で、改めて自身のケアを振り返るきっかけになったとのこと。家庭的でアットホームな雰囲気とチームワークの良さが一番のアピール点である。***新型コロナウイルス感染対策としてオンラインで調査を実施。ホーム内の視察及び書類閲覧はモニター越しに行い、リアルタイムの映像で確認。**

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者と職員は、就業中やミーティング時にその都度話し合いを行い、施設の理念を理解し、共有したうえで実践できるようにしています。	体調観察や看取り、日々のケアの中で、理念であるチームケアの重要性を実感している。事故防止に関する事など、身近な問題は現場チームで、大きなことは全体のミーティングで話し合う。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の住民の方に運営推進委員になっていただく、地域の理髪店の方に散髪をお願いする、地元の消防団の方々に避難訓練に参加していただく等交流の機会を持つようにしていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い外部の方との接触を最低限にしている為、外部の方が参加した会議等行えていません。	地域との繋がりは自粛中である。家族の面会にも制限があり、直接の繋がりはできないが、手紙や電話連絡が増えた。コロナ禍前は地元の床屋さんがボランティアで訪問してくれたり、消防団の協力も得ていた。コロナ収束後にまた依頼したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所やサービスの相談があった場合はその都度対応し、場合によっては包括支援センターに繋げるなど行っています。(以前は認知症サポーター養成講座開催の協力等行い、地域の方への認知症の理解の場に携わっていましたが、現在講座が開催されておらず、また開催されるときには協力し地域の方々に認知症の方の理解等をひろげられたらと思っています。)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、外部委員の方が参加した会議は行わず、職員だけで行いました。感染対策や面会制限の期間や面会方法について話し合いを行い、他の職員に周知しました。	系列ホームと一緒に職員のみ開催し、文書にまとめ運営推進委員や家族に郵送している。家族からは「コロナ禍で対応の仕方など教えてもらって助かる」という言葉がよせられた。市役所からは職員だけの開催で良いと言われている。家族面会も制限中なので、外部の方の訪問は難しい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者とはその都度連絡・報告・相談を行い、良い協力関係が築けるように努力しています。昨年に引き続き新型コロナウイルス関連の情報をメールで送っていただいたり、対応で迷うことがあれば、電話にて相談し指示をいただいています。	電話やメールでのやり取りが多い。職員の発熱時に検査などの相談をしたり、新型コロナワクチン接種後は利用相談などで包括とのやり取りも増えてきた。ケアについての相談もできる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティングや施設内研修を行い、言葉の拘束も含め身体拘束を行うことで起こる弊害を職員が理解できるようにしています。身体拘束廃止促進担当者会議を定期的に行い、各棟の対応方法を再確認するようにしています。	年4回、系列のグループホームと合同で委員会を運営推進会議の後に開催。議事録も作成している。利用者の対応、拘束しないための工夫、必要と考えられる人への対応等を話し合った。誤室の事例があり別棟の職員とも協議し対応を考えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する資料を準備。その資料を使って施設内研修を行うなどし、施設内で虐待が絶対に行われないよう職員同士気を付けて業務を行うようにしています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	特に管理者は日常生活自立支援事業や成年後見制度に関して学ぶ機会を持つようにしています。現在1名の方が成年後見制度を利用し金銭管理等を行っていただいています。今後も利用される方が出た時にすぐに対応が出来る様にしたいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族に確認をしながら説明し、不安や疑問に思っている点はその都度説明するようにしています。解約時や変更時にも十分説明し理解していただけるよう対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からの意見や希望は普段の生活の様子や会話からの気づきを大切にし、その都度解決、対応できるようにしています。ご家族からの意見は電話等でご本人のご様子を伝える際にお聞きできるようにし、ミーティング等で職員が共有できるようにしています。	体調が不安定な利用者の家族とは連絡を密にとり、窓ごしに顔を見てもらった。利用者から食べ物に関する希望が出た場合は、なるべくかかえている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティングや提案が上がった時に管理者は話を聞くようにしています。内容によっては個別に話を聞く時間を設けるようにしています。	利用者から要望があり、寿司を献立に取り入れた。家族とのイベントもできないため、避難訓練と合わせてBBQを楽しんだ。リハビリパンツをオムツに変更する等の提案など、小さなことでもすぐに相談できる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は職員の勤務状況等を把握するようしており、その内容に応じて評価を行うようしています。職員が意欲をもって働ける環境づくりをし、代表者が施設に来た時には職員に声をかけコミュニケーションをとるようにしています。(新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、以前ほど施設に立ち寄ることが出来なくなっていますが、ホーム長や管理者から伝えるようにしています。)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間通して研修の計画を立て、職員が成長することが出来る様にしています。昨年に引き続き、施設外研修に参加することが難しい状況となっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業者を集めて行われる研修等に出来るだけ参加していますが、リモート研修となるものが多く、以前のような交流は難しい状況となっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前は出来るだけご本人に直接お会いし、お話を聞くようにしていますが、昨年に引き続き対面での聞き取りが難しい状況もありました。ご家族からは電話で必ずお話を伺うようにしています。入所後も不安や戸惑いがあると思われるため、声掛けや様子観察を行いながら、その都度対応できるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前にお話をする機会を設けていますが、今までの様に施設内で相談を行うのではなく電話で行っています。また、入所の受付をするだけではなく、困ったことや不安に思う事があれば入所前でも対応し、ご家族の不安が解消できるようにしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前同様、入所後もご本人・ご家族よりお話を伺い、必要としている事があれば支援出来る様にしていきます。医療に関する事であれば、かかりつけ医や看護師へ入所前に相談し、入所後すぐ対応が出来る様にしていきます(在宅酸素等)。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員といった関係ではなく、もっと近い存在となれるよう、職員はご利用者様と一緒に生活を送る存在として寄り添い、喜びや悲しみを一緒に共感することが出来る関係を築けるように努力しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご利用者様同様、ご家族と職員といった線を引いた関係ではなく、もっと近い関係となり一緒に喜びや不安等を共有し、ご利用者様を支える関係が築けるように努力しています。ご家族によってはメールで連絡が行えるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、直接対面しての面会が難しい状況の為、電話やガラス越しでの面会となっています。ご家族には今までの馴染みの関係の方からご連絡いただいても大丈夫であることを説明し、入所前の関係が続けられるようにしています。	馴染みの人は家族や職場の人。コロナ禍前は連絡をくれる知人も多くいた。窓ガラス越しに電話を通して会話することもある。LINE等の利用は難しい。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	以前は、職員が極力会話に入らずご利用者様同士でコミュニケーションが図れるようにしていましたが、感染対策としてマスクの着用やアクリル板の設置を行ってから、ご利用者様同士のコミュニケーションが取りづらくなっている為、職員が関る事が増えています。また、認知症の進行に伴いコミュニケーションを取るのが難しいご利用者様もおり、職員に係る事で他のご利用者様とコミュニケーションが取れるようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了と共に関係を終わらせるのではなく、退所後サービスが必要であれば後任のケアマネジャー様への情報提供を行い、退所後に安心した生活を遅れる様支援しています。また、退所後に相談があればその都度対応する様にしていきます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様本人より聞き取りが出来る場合は、改まった場を設けるのではなく、日常の会話を通してご本人の希望や意向の確認が出来る様になっています。希望を訴えるのが難しいご利用者様は、ご家族と相談し、その方らしい生活を送ることが出来る様支援しています。	新たな発見は口頭や申し送りノートで情報共有し、ミーティングで話し合う。ピアノが趣味の方がおり、ピアノを用意した。食べ物への関心が強く、テレビのCMを見て食べたいとの声があがり、叶えたいと考えている。広告からも、季節の食べ物を知る事ができる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、どのような生活をされていたかご本人やご家族からお話を伺い、出来るだけ把握するようにしています。入所後、新たに分かることもある為、その都度職員全員が共有できるようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前に確認した生活歴等をもとに入所後もその方らしい生活が遅れる様に務めています。入所後に状態が変わったり不安定になる事もある為、こまめに様子観察を行い、その都度その時の状態に合わせた対応が出来る様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画を作成する場合は、ご利用者様の希望(無理な時はご本人の状態から)・ご家族の意向・かかりつけ医からの指示・毎日接している職員からの意見を反映した計画を作成するようにしています。職員からはミーティングや業務中に話を聞くようにしています。	契約前は管理者が調査し、利用が開始されたらケアマネが聞き取りをする。モニタリングは月2回のミーティングで行い、計画に沿って話し合いをする。計画票にモニタリング欄があり、月毎の注意点に焦点を絞っている。個々に目標と結果のメモを貼り付けているので、すぐに確認できる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ご利用者様の個別ファイルを作成し、生活の様子・食事量・バイタル・排泄等を記録。必要時には日誌等に申し送り、確認することで状況や経過の把握が出来る様にしています(日誌は出勤時に確認し押印することとしています。)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症という病気のため、日々状況が変化するご利用者様もいらっしゃいます。その方にとって一番良い生活とは何かを職員全員で考え、サービスが提供できるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握を行うようにし、警察署・消防署(消防団含む)とは必要時には連絡を取りながら、何か起きた時の協力をお願いします。(その他の社会資源に関して、ご本人・ご家族からご希望がない為、今のところ個人的なご利用はありません)。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設で契約しているクリニックの受診や相談が基本となっていますが、希望があれば他の病院への受診対応をしています(入所前にご家族への説明・確認を行っています)。かかりつけ医とは良好な関係が築けており、日常的な相談も受けていただいています。	強制ではないが、全員月2回の往診が基本。定期往診以外はFAXや電話でのやり取りとなる。夜間も含め24時間対応。直接、医師の携帯に連絡が取れる。訪問看護を利用者する方もいる。訪問歯科はコロナ禍で休止し、外来受診に切り替えて職員が送迎をする。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活において、小さな事であっても気になる事や不安に思った事は看護師に相談し対応できるようにしています。場合によっては看護師から医師に連絡を入れてもらい、適切な対応が出来る様にしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ご利用者様が入院となった場合、必ず職員が付き添い、医師からの説明を受け、状況を把握するようにしています。入院が長くなる場合はご家族に確認したり、病院に状態の確認を行い、病院関係者との関係作りも出来る様に務めています。退院前にもご本人の状況を確認するようにしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まずは、ご家族の意向を確認したうえでかかりつけ医に相談。その後、ご家族・管理者・かかりつけ医と話し合いを行ったうえで今後の方針を決定しています。かわりあう全員が方針を共有し支援出来る様にしています。状態が安定しない方もいらっしゃる為、その都度かかりつけ医や訪問看護師に相談し、ご家族に報告する様になっています。契約時に同意書にて説明を行うようにしています。	看取りに関する考え方と指針を説明し、同意書をもろう。看取りの希望は多い。ホームで看取る予定の方で療養型に移った方もいる。最後の時が一人にならないように、夜間に付き添う事もある。医師や家族、管理者で話し合う他、職員間でも話し合いを持ち、家族の気持ちを受け止め、自然体で支援している。夜勤帯に一人で不安を感じたが、家族からの感謝と労いの言葉に救われたとのこと。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に対応方法の訓練を行ったり、施設内研修を行ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練の他、避難経路・避難方法等については色々な場面(出火場所・出火の状況)を想定し、話し合いやシミュレーションを行っています。災害時等の協力を消防署や地元の消防団等へお願いしています。(昨年に引き続き今年も職員・ご利用者様だけで訓練を行いました)。自家発電を設置しています。	自然災害や不審者、放火想定訓練を行った。利用者も一緒に消火訓練を行い、講評では夜間想定訓練を定期的に行う様に言われた。計画書を基に少人数ずつの対応を行う。備蓄は水や米を多めに用意している。カセットコンロを備え、停電中も調理できる。発電機を用意しており、エアコンも使用できる。持ち出しグッズは個人毎に準備。広域避難所の利用には不安がある為、別の避難場所を検討中。車イス避難に手間取ってしまったことが反省点とのこと。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様それぞれに合わせた声掛けや対応に気を付けています。必要に応じて居室入口の窓に目隠しをするようにしています。	希望者には入口のドアにカーテン取り付けている。排泄介助時の目隠しにもなっている。排泄誘導には、その方に合わせた声掛けをする。利用者は地元の方と別荘への移住者が半々。利用者同士のトラブルはない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員がすべて決めるのではなく、ご利用者様に確認し決める様子を付けています。確認方法もそれぞれのご利用者様の状態に合わせた質問方法にし、出来るだけ本人が自分の意見を出せる様に支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様それぞれに合わせた対応をする様に気を付けています。起床や食事の時間はその方の希望する時間やその方の状態に合わせています。職員は業務中心ではなくご利用者様中心となるよう気を付け、ご利用者様が望む生活が送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴等で衣類を選ぶ場合は、出来るだけご本人と一緒に選んだり、ご本人に要していただくようにしています。ご自分で選ぶ事が難しい方は、その方らしい服装になるよう職員が気を付けて選んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	新型コロナウイルスの感染予防の為、以前のように職員がご利用者様と一緒に昼食を食べる事は控えています。食事の準備や片付けも今は職員が行っている為、別な事でお手伝いや楽しみが見つけれようとしています。	材料は業者から仕入れ、地元の直売所も利用し、自家栽培の野菜を使う事もある。献立は利用者の希望を取り入れて、専任の調理員が立てる。行事食や生寿司、チラシ寿司や赤飯など、季節に合わせた食事は好評。誕生日には本人の希望を取り入れた献立で、全員で食べる。おやつは午前午後の2回で、飲み物はお茶以外にもコーヒーやココア、紅茶などバラエティに富んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は毎食必ずチェックし、減少してきた方はかかりつけ医に相談、栄養剤(エンシュア)等に対応しています。ご本人の状態や採血結果をみていただき経過観察する場合があります。食事量の減少により脱水の心配もある為、場合によっては点滴を行うようにしています(特に経口摂取が難しくなってきた方)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、職員が声掛けし確認しています。ご利用者様の状態や必要に応じて介助や見守りをしています。義歯は夜間お預かりして消毒し、翌朝起床時にお返しするようにしています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけオムツ等を使用しないで排泄できるよう支援はしていますが、下着の汚れを考えると尿取りパットの使用も行っています。尿取りパットやリハビリパンツを使用している方でもトイレでの排泄が可能な方は、時間をみてトイレ誘導・声掛けを行いトイレでの排泄が出来る様にしています。	落ち着かない様子の時に声掛けをしたり、排泄表で把握して声掛けをする。本人が出ないとっても時間で誘導すると出る事がある。他利用者の前での声掛けは避ける。夜間もチェック表を活用し、センサーで感知する事もある。就寝中に見回り、起こして介助することはない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、水分を多めに摂取したり体を動かすよう声掛けを行うようにしています。また、医師へ相談し、薬での調節を行っています。必要な方は排泄チェックを行い便秘にならないよう気を付けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の目安とする予定日は決めてありますが、予定日には必ず本人に確認。最低でも週2回は入浴できるよう、午前・午後の時間を使って入浴を行っています。入浴できなかった場合や本人の希望により清拭や足浴等も行っていきます。	全身用シャワー浴、足浴のみの方がいる。長風呂を楽しむ方がいる。脱衣所や浴室にエアコンが設置されている。入浴するまでは億劫でも、入ると気持ちよく入浴されるので、時間を置きながら誘導する。着替えは本人と一緒に選んで浴室に持って行く。浴槽は一人ずつ洗浄する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の記録や夜勤者からの申し送り等にて睡眠時間の確認を行うようにしています。起きてしまう方、なかなか寝付けない方はお話をするなど対応をしています。睡眠時間が少なく日常生活に支障が出てしまう方は、かかりつけ医に相談し薬の服用も検討。服用した場合は、経過観察を行い、かかりつけ医に定期的に報告し調整を行うようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入所者様がどのような薬を服用しているか内容を把握し、指示通り服薬が出来る様支援しています。また、薬の変更や追加があった場合は必ず経過観察を行い、かかりつけ医にその都度報告し、場合によっては変更等の調整を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	テーブル拭きや新聞折り、洗濯たたみ等ご自分の得意な事・出来る事を行っていただいています。新聞や本を談話室においてご利用様が好きな時に読むことが出来る様にしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご利用者様の外出が難しい状況です。大きい行事や外出が出来ないかわりに、施設でバーベキューを感染対策したうえで行いました。以前のような行事や外出が出来る日が来ることを望んでいます。	施設の駐車場が広いので、駐車場の散歩でも気分転換になる。コロナ禍前は買い物等にも出かけていたことを、楽しみにしていられる方がおり、車でドライブする事がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つこと、自分で使う事大切さは理解していますが、ご家族の希望により自分で持てる方がほとんどいらない為、ご利用者様全員を支援することは難しいです。また、現在は外出することが難しい状況の為、お金を持っているご利用者様がいても行えていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話利用の希望があれば、いつでも利用できるよう対応しています。昨年に引き続き、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ご家族や知人の方と電話でのコミュニケーションが増えました。ご利用者様に届くお手紙やはがき等はそのままご本人やご家族にお渡ししています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床や柱は木のぬくもりを感じ、温かみを目で感じる事が出来るつくりとなっています。季節に合わせた掲示を行い、目で季節を感じる事が出来る様になっています。施設というよりは家庭的な雰囲気を感じる事が出来る様心掛けていますが、感染対策の為アクリル板の設置をしています。	共同作品のちぎり絵を毎月一枚ずつ作成し、壁に飾っている。リビングは、中庭が見える明るい空間で、ゆったりくつろげるソファやデジタルピアノが置かれている。花壇には花や夏野菜を植え、利用者と一緒に草取りをする。アーチ形の玄関には花や利用者との行事の写真が飾られている。非常口にはスロープを設置し、ユニット間の行き来ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	以前は食事をするスペース以外にソファ等を置いていましたが、感染対策の為、現在はソファをおいておらず、また、接触を減らすため、居室で過ごす時間が増えています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所前、ご家族にご利用者の使用していたものや馴染みの物を持ち込める事、居室を自由に使用できることをお伝えしています。写真を飾ったり、お孫さんの絵を飾るなどご家族の協力のもと、その方らしい居室づくりが出来る様心掛けています。	トイレや洗面台、呼び出しボタン棚やタンス、ベッドはホームの備え付け。本人の希望でちぎり絵を飾り、その上に100歳の表彰状が飾られていた。ハンガーラックや時計、カレンダーやテレビ等を持ち込み、それぞれ個性のある居室になっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入り口には、入居者様の目の高さに合わせて表札を出しています。お部屋が分からなくなってしまう方は職員がさりげなく付添うなどお部屋を間違えないようにしています。その他ご利用者様が混乱すると思われる物は早めに取り除くようにしています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム レガート

目標達成計画

作成日: 2022年4月18日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	新型コロナウイルス感染症対策として、外部の方を交えた運営推進会議は行っておらず、会議後に結果や資料をお送りするようにしている。	感染症が落ち着くまでは、現状と同様に職員だけの会議となってしまうが、新型コロナウイルス感染症が落ち着いた後に、以前の様に外部の方が参加した運営推進会議がスムーズに行うことが出来る様、会議内容や施設内の様子、感染症対策について等の発信をご家族等に続けるようにする。	運営推進会議の内容等を、ご家族にお送りするようにする。また、その際に、質問等があれば郵送や電話で施設にご連絡いただける様にし、ご質問に回答出来る様にする(すぐに回答出来る事であればすぐにお返しし、内容によっては会議で話し合いを行って回答するようにする)。	3ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。